

# はくさんさん

## 妙薬

第99号 平成28年秋号  
伊豆市 法住寺 発行

「住職さん、助けて下さい〜」、その方は遠方よりやっとの思いでたどり着いて、絞り出すように言った。

ちようど所用で出かけるところであったが、胸の苦しみ、どうにもならないとの話を本堂で伺った。

先ずはお茶を飲んでもらい落ち着いてもらおうと、慣れない手付きでお茶を入れた。あいにく寺庭、副住職ともに留守、それでも「美味しい」とのことに先ずはホッとした。



長い間いろいろな治療を受けてきたが、今は信頼できる先生に巡り合えたこと、それでも時にどうにもならなくなることなど、いろいろ話して下さいました。私はすぐに思ったことを口にしてしまい話を聞くことが下

手。そんな自分をおさえて、話を聴こうと心掛けた。そして本人でなければ分からない苦しみや大変さを思った。

いろいろ伺った後、お題目が何よりと、一緒にお唱えした。まずは姿勢を整え呼吸の仕方、そしてゆっくりとおおらかに、高らかにひたすらにお唱えした。まことに善いお題目だった。お帰りになる時には「胸のモヤモヤがなくなり落ち着いた。今日は伺ってとても良かった」と言っていた。私にも嬉しくなるのでした。



この方には、さまざまなことを教えて頂き、またお題目が妙薬であることを改めて想った。

私たちは日頃から様々なことを考え、考えることは良いことだと教育されてきている。確かにその通りにしても、考え過ぎない方が良くもある。何故か？私たちの本性には大宇宙に通ずる気があって、考えのとても及ばない世界を誰もが持っている。霊性、仏性、魂と云われる世界、この世界ではへたな考えは無用。そもそも「考える」って、だいたい自分の都合の良いように、自分の利益になるように考えてしまう。そう

すると大宇宙へ通ずる気が細くなって、結果的に自分の思うようにならないと腹をたてたりする。



では霊性、仏性を磨くにはどうしたらよいか。『いか様にしてか磨くべき。ただ南無妙法蓮華経と唱えたたてまつるを、これを磨くとは云うなり。(日蓮大聖人 一生成仏鈔)』お祖師さまは、何んと具体的で実践的にご教示してくださっていることでしょう。本来、宝の珠を持っているのだが、そのことに気づかず、自分は価値のない者だと思いがくもってしまった。心がくもれば生活がくもり、迷ったり欲を出しすぎたりして苦しくなる。心が清ければすっきりして安らかになる。磨きなさい』とご教示です。

## お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

今年も暑さ続きの夏でした。十月に入ってもその暑さは続いていて、中学生などはまだ夏服姿なのでした。そんなある日の事です。

その日は急に空気が冷んやりと秋めいて「こんな風(ふう)に秋は突然やってくるのか!」と長袖を引っ張り出したのでした。



それはその日の真夜中におきました。早々床についた私でしたが、ふと夜半、目が覚めました。すると誰かが足早に廊下を歩いてくる音がします。そして「寒いねえ」とつぶやきながら隣の衣部屋を開け、中に入り、直後に出ていったのです。

「誰だろう?」、「ああ そうか。今日は洋明上人が夕方からお経の会に出掛けていたので、遅く帰ってきて法衣のカバンを置きに衣部屋まで来たのだ:」と、自分なりに思いまた眠りました。翌朝、洋明上人に「昨夜、衣部屋に来たよね」と尋ねると「いや昨夜はそれ程遅くならず、衣部屋には行っていないよ」とのこと。では昨晚、衣部屋に来たのは一体、誰だったのでしょうか。

「不思議な事があるものだ:」と考えるのですが解りません。半日たつて「そうだ!」と思いました。「お祖師さまに違いはない!」、同時に洋明上人からも「昨夜の方はお祖師さまだよ。今朝のお経をあげていて

気付いた」と話がありました。と云いますのは十月一日は《ご更衣の日》。冬の衣にお着替えする日でしたが、あまりの暑さ続きにお祖師さまも暑いことでしょうかと躊躇していたのです。直にご更衣させて頂きました。

本当に申し訳ないことでした。でもこの様に「ふいに風の如くにやってきて、メツセージを残して駆け抜けていく」という事を示して下さり、かけがえのない体験でした。そしてこれからも、いつそうお給仕に励みたいと思うのでした。

### 感謝状贈呈

護持会第二二期(H25.4~H28.3)役員をお務め頂いた皆さんに、お会式法要参列の皆さんと共に感謝の気持ちをお伝えし、住職から感謝状をお贈りしました。ありがとうございました。

◎退任役員 (総代)杉山勲さま、(世話人)伊東由廣さま、山下秀治さま、土屋正次さま、佐藤薫さま、佐藤敏明さま

### お盆の付ナ回のお願

真夏のお盆のお施餓鬼、今年も本堂にいつぱいのご参詣をいただきました。八月三日、酷暑の時期、扇風機の風も通りにくく皆さんにご迷惑おかけしています。

お盆は檀家各家のご先祖さまと新盆のご回向が中心となります。そこでお願いですが、参詣の方々に少しでも風が通るようにしたく、付け回向は春と秋のお彼岸で行わせて頂きたいと思えます。

また霊位を落着いた気持ちでお招きし、ご供養して頂ければと思いますので、出来るだけ各家ごとに法事を営むことをお願い致します。

## トピックス

### 寺子屋

「お寺のホームページに写真集を掲載しています。 <http://juro.jp>」

今年は元村の山下要さんが野菜を丹精して下さり、ブルーベリー、トマト、キュウリ、オクラ、スイカ等々、沢山の野菜を収穫体験させて頂きました。野菜の実っている様子を知り自分の手で収穫。その野菜は夕食のカレーや朝食に頂き、各自の家へのお土



## 伊豆連合大題目

九月二十五

日、大仁浮橋の  
本道寺にて伊  
豆連合大題目  
が開かれ、護持会役員さんはじめ二十三名  
が参加しました。

伊豆連合大題目講の山下要会長の挨拶で  
始まり、熱のこもった話に会場の雰囲気  
が相応しいものとなりました。その後お題目、  
そして若手のお上人の法話を聞き良いご修  
行の一日でした。

## 寺庭信行会

伊豆国寺庭婦人会の信行研修会が九月二  
十八日、会長寺院の当山で開かれました。  
講師は石野澄子さま。洋明上人の荒行団

産にも頂きま  
した。

子供たちの  
元気な声、太鼓  
が響き活気  
のある二日間  
でした。

参で大変にお世話になった真間山弘法寺の  
寺庭さん、現在は木更津市光明寺の寺庭婦  
人です。国際線のアテンダント(スチュワー  
デス)の経験談や大きな本山で貫首さんと  
の活動などお話し下さいました。参加の寺  
庭さんも和み、いろいろな意見交換などが  
あり、大変有意義な信行会になりました。

## お会式

### コンニャク

今年もコンニャクが大好評。あの丁度よ  
い味と歯ごたえ、ああくうまかったあ。コ  
ンニャク玉をすり下ろすと手がとても痒く  
なるので、ミキサーを使うようになってい  
る。けれどもお寺では昔ながらに手で、歯  
ごたえが違ってくるのだそうです。はま江  
さん、英子さん、やす子さん、毎年、ありが  
とうございます。

### 万灯花(じくり)

万灯を飾る花、本堂、玄関、山門、諸堂と  
何百もの花。家で沢山に作ってきて下さる  
方も。そして花付け、細い穴に針金を通す  
のは老眼を感じてしまいます。白龍会、十  
二日講の皆さん、ありがとうございます。

## 献灯献花



今年十二名の子  
供たちが参加。たど  
たどしい子を上級生  
が導く。六年生で今  
年最後になるからと  
サッカーの試合が終  
わって駆け付ける。  
ご宝前の灯りと花の  
世話をするOGの中  
学生。まことに清ら  
かな灯りに、ジーン  
と目頭があつくなる  
のでした。

こうして本堂の大  
勢の中で灯りを捧げる子供たち、あの池上  
のギャラリーの前にして纏を振った子供た  
ち、寺子屋で木に登った子供たち。これか  
ら成長していく時、お祖師さまは必ずご守  
護下さっていると思うと目頭があつくなる  
のでした。

## お勝手

台所では元村の女衆さんが煮物、あえ物  
づくり。お勤めがあり貴重な休みの中での  
ご奉仕です。ほんとうにありがとうございます

ました。このお会式はお寺・地域の文化であり、地域づくりと思っておりますので、



「十月」  
舞儀砌  
三回忌砌  
回忌砌  
母納骨砌

今後とも宜しくお願い致します。

### 応援し隊

今年も本当

に多くの皆さんのお力でお会式を行うことができました。皆さんがいろいろなご縁を作って気持ちを通い合わせる、「あなた」の手で良いお祭りに、応援しちやいませう。



## 洋明さんのおはなし

先日ある国の某大統領が、「神の声が聞こ

えたので暴言をやめる」と宣言したことがニュースになりました。このニュースを聞いて皆さんはどう思いましたか？「まさか！」「また〜」このニュースには裏があるのでは？」などなど感じたことがあると思います。私は、素直に「そうなんだな、神の声が聞こえたんだな」と思いました。



ある日の出来事です。毎月お寺にお詣りをされるAさんが、本堂でお詣りをしていると「この本堂で、少し魂を休めていきなさい」との声が聞こえたというのです。お詣りを終えたAさんは、私に「こんなことであるのでしょうか？その声って日蓮聖人の様な気がします」と話してくれました。私自身、そうしたお声を聞いたことはありませんが、その話を聞いたとき何とも言えない喜びと嬉しさに心が包まれたのです。思わず「嬉しい。きつとそうだよ。」と申し上げました。と同時に「やっぱりそうか！嬉しい！有難い！」とも思いました。

私にはそのお声が聞こえることはありません。しかし毎日この本堂でご給仕させて頂いている仏さまをはじめ、日蓮聖人、ご守護の諸天善神の存在をAさんの経験を介

し改めて確信出来たのです。そしてこのご本尊さまをお祀りしている場所、法住寺のこの本堂が、皆さんの魂の安らぎの道場であることを確信しました。本当に嬉しく心が喜びに満ちた瞬間でした。ひよつとしたらAさんは私にとって「変化の人」仏さまのお遣いだったのかもしれない。



法華経には「所願具足 心大歡喜」という一説があります。「願うことが不足なく具わり、心から大いに喜び嬉しく思う」ということです。今回の出来事はわたしにとつてまさに「所願具足 心大歡喜」。日々手を合わせ、お題目をお唱えしても、自分の都合の良い様に目の前の事が変わるばかりではありません。しかし、どんな時も仏天は我々の後ろ姿をちゃんと見ていて、決して目を逸らすことなく見守って下さっているのです。そして時には心から本当に嬉しく有難いと思えることを示して下さいましょう。

皆さんにも「所願具足 心大歡喜」があります事祈っております。そんな素晴らしい経験をされた時は、是非お話を聞かせて下さい。